

University of Toyama : Design Thinking Education Project Based Learning , Problem Based Learning



Sus	都市デザイン学部	Tad	芸術文化学部
Sci	理学部	Med	医学部
Eng	工学部	Hmt	人文学部
Eco	経済学部	Pha	薬学部
		Edu	教育学部

目次

はじめに 講義の趣旨	1
日程 (タイムライン)	2
事前顔合わせ会 (お茶会)	3
講義風景	4
各グループのテーマ	5
1. 私達だからできるこれからの起業	6
2. 南砺市をなんとしても売り込む企画	7
3. 富山のライブデータその活用方法	8
4. 富山の「お土産 (お持ち帰り)」	9
5. 富山の魅力を伝える新たなPR法	10
6. 富山から出発する玄人志向のヨーロッパツアー	11
7. 火山噴火での減災に向けて、景観と安全を両立シェルター	12
8. 新しい・新たな「歩き、回遊」	13
9. 大学生が考える子供向け教室	14
10. 廃校の新たな活用方法を考える	15
11. ジオパークで遊びをデザイン	16
12. 公共交通のネットワークとまちづくり	17
連携・協力企業/団体	18
本学関係協力教員・実行委員	19
おわりに	20

はじめに

「全学横断PBL」は、全学部の学生を対象とし異なる専門教育を受ける学生たちが混成チームを組み、デザイン思考による協働（ワークショップ）を通じて創造的な課題解決を目指す授業です。個々の学部の中では狭くなりがちな視野や発想の幅を広げ、異なる専門性を有する者同士のコミュニケーションがいかにより重要で効率的なものであるかを体験的に学修するため、学内のみならず企業や行政とも連携し、産官学金の協働によるクリエイティブなワークショップを実践しています。

授業の進め方について

共通目標は、「富山の地域循環共生圏」創りとし、関連した12のテーマに取り組んでもらいました。テーマ毎のメンバーは6名で構成しています。

連携企業・行政、協力教員、授業担当教員の皆様には、主に『先輩の生活者として』グループワークに参加していただきました。初日のコーヒータ임、2日目の中間発表では、チーム毎にブースを設けて企業・行政・協力教員がそれぞれのブースを尋ねて歩くスタイルとし、各グループの相談に答えています。

- 3日間の集中講義として開催し、中日を設けて最後に日に向けて作業等の時間にとってもらっている。
- 8月初旬には事前顔合わせ会を実施し、グループ内で班員毎の連絡先交換など、夏休み期間中に活動してもらいやすい環境づくりに配慮している。

2023「全学横断PBL」集中講義（3日間）のタイムライン

1日目

9月26日（火）

8:30	
8:45	参加者入室許開始
9:00	オープニング(学長挨拶/15分)
9:30	全体説明(30分)
10:00	アイスブレイク(30分)
10:30	著作物等の注意事項(10分)
11:00	グループワーク(90分)
12:00	昼食
13:00	協力企業・団体(教員)の紹介
14:00	グループワーク(60分)
15:00	コーヒーブレイク(相談タイム/60分)
16:00	まとめ・振り返り(30分)
16:30	後片付け

2日目

9月27日（水）

8:30	
8:45	参加者入室開始
9:00	全体説明(多目的ホール)
9:30	グループワーク(60分)
10:15	(休憩/15分)
10:30	グループワーク(90分)
12:00	昼食
13:00	グループワーク(120分)
14:00	
15:00	(休憩/15分)
15:15	中間発表(各Gの進捗共有) & コーヒーブレイク
16:00	まとめ・振り返り(30分)
16:30	後片付け

9月28日（木）

必要に応じて各
グループ単位で
活動する時間に
充てる

3日目

9月29日（金）

8:45	
9:00	参加者入室開始
9:15	全体説明(多目的ホール)
9:30	グループワーク(プレゼ資料作成)(75分)
10:15	(休憩/15分)
10:30	グループワーク(プレゼの準備)(75分)
12:00	昼食
13:00	発表(前半)(100分) 発表7分/質疑3分 = 10分 x 7班
14:00	(休憩10分)
15:10	発表(後半)(50分) 発表7分/質疑3分 = 10分 x 5班
16:00	振り返り/閉会式 (安永学部長挨拶/10分)
16:30	後片付け

事前顔合わせ会「お茶会」の実施

お茶、お菓子を片手に、各グループごとに集ってもらって顔合わせと連絡先の交換などを行いました。また、企業・行政、協力教員の方にもご出席いただき、各班との情報交換やこれまでの経緯等をお話していただきました。

これまでのPBLの事例紹介

『梅檀山地域を守るためにわたしたちができること』

PBLの例として、「梅檀山地域を守るためにわたしたちができること」と題した取り組みや活動事例について渡邊了教授に紹介していただきました。

8.2 (水) 15:00~16:00
富山大学生協本店2階



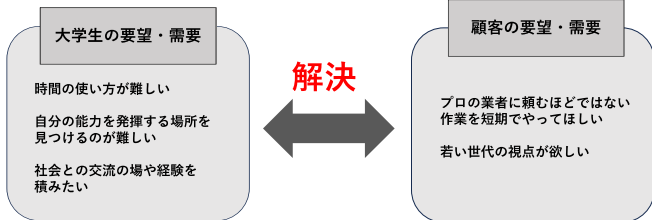


各グループのテーマ一覧

1. 私達だからできるこれからの起業
2. 南砺市をなんとしても売り込む企画
3. 富山のライブデータその活用方法
4. 富山の「お土産（お持ち帰り）」
5. 富山の魅力を伝える新たなPR法
6. 富山から出発する玄人志向のヨーロッパツアー
7. 火山噴火での減災に向けて、景観と安全を両立シェルター
8. 新しい・新たな「歩き、回遊」
9. 大学生が考える子供向け教室
10. 廃校の新たな活用方法を考える
11. ジオパークで遊びをデザイン
12. 公共交通のネットワークとまちづくり

1 私達だからできるこれからの起業

レンタル大学生とは

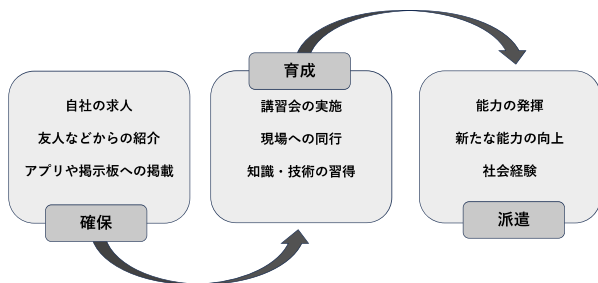


そんな大学生の強みを活かす「レンタル大学生」

「レンタル大学生」の流れ



人材の確保・育成・派遣



レンタル大学生の将来像



都市デザイン学部：小津野佑陸，吉田 瑛，川尻健太郎，吉川悠貴

2 南砺市をなんとしても売り込む企画

南砺市をなんとしても売り込む企画

2つの方法を用いて南砺市を売り込もう！

1. フローチャート

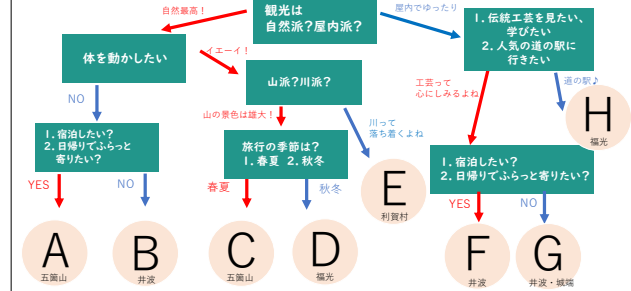
対象：若者、家族連れ
 期間：短期、弾丸旅行
 目的：自分に合ったコースを見つけることで、南砺市について知ってもらおう！



2. ショートステイ

対象：外国人
 期間：余裕を持った旅行
 目的：歴史的、伝統的な多くの体験を通して、南砺市について深く知ってもらう！

1. あなたの旅先は？ My Nanto

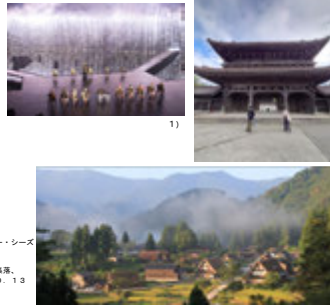


2. ショートステイ

期間：2泊3日

宿泊場所：井波、五箇山、利賀村

目的：地域文化とのふれあい
 ここでしかできない体験



引用
 1) 富山観光公式サイト 富山観光ナビ 掲載>イベント>3037サマー・シーズン2022。 <https://www.info-tourism.com/events/91695>
 最終訪問日 2022.10.13
 2) 富山県立五箇山観光情報サイト五箇山形景観情報>招き合掌通り高滝。 <https://gokayama-info.jp/archives/1718> 最終訪問日 2022.10.13

宣伝方法


- ・市外のSAに電子掲示板でフローチャートを掲載、紙として設置
- ・Instagram等のSNSで発信する
 例)「富山カフェ部」「富山紹介」のアカウントにフローチャートを掲載してもらう
- ・小学校でプリントとして配る
- ・YouTubeで紹介VTRを流す
 YouTuberにショートステイ体験動画を撮ってもらう
 例)「南砺市でショートステイやってみた！」
- ・県外近隣の外国人観光客が多い観光地に宣伝ポスターを掲載

人間発達科学部：山下亜子，芸術文化学部：坂田有美，都市デザイン学部：長谷川琴乃，西野光喜，波多野龍介

3 富山のライブデータその活用方法

ライブデータとは？

—各地点の今の状況が分かるデータ
(例) ・駐車場の空き状況
・駅前ライブカメラなど



写真：グループワークの様子

経緯

総曲輪に注目
・富山駅から市電で行ける
・周辺にマンション等が多い

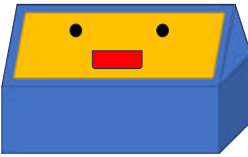
人流データの可視化
総曲輪周辺の人流データ(人数・性別・年代)

現状の課題
・値段の高い店が多い
・シャッター街
・何があるのかわからない

理想の姿
・チェーン店多め
・若者に人気な安めのお店

ライブデータを活用して理想の総曲輪に近づけた

解決案：にぎわすくん（タッチパネル式掲示板）




にぎわすくんイメージ

- 各場所の混雑状況、地図、メニュー等を表示
- AIカメラを用いて、にぎわすくんを見ている人の年代や性別を判断し、その人に合った広告の表示
- 可動式で複数設置
- アプリ、webサイトとも連携

商店街での利便性の向上・新たな発見

店側へのメリット

- 広告による宣伝
- (例) 広場等で体験している人たちの年代・性別・家族構成に合わせた広告の表示
- 混雑している店舗の広告は少なめに、空いている店舗の広告は多めに表示
- 商店街に訪れている人の年代や性別等に関するデータの供給
⇒客層に合わせた商品の仕入れや材料・食品のロスの軽減
- 予約による店舗の負担軽減



写真：フェリオ前掲示板

既存の店の集客向上・新規出店へのサポート

更なる商店街の活性化
他の商店街での活用拡大によるデータの収集

データの収集と活用の循環を進め、商店街の活性化を目指す

にぎわすくんのその他の活用法

- 災害への対応

火災や地震など災害が発生

音声で避難誘導
AEDや消火器の場所表示
警察や消防への連絡機能

円滑な避難、人命救助への活用

【まとめ】
ライブデータを用いて総曲輪の賑わいを取り戻す

4 富山の「お土産（お持ち帰り）」

4班 富山のお土産（お持ち帰り）

コンセプト

ターゲット→旅行に富山に来る人たち

「富山といえば〇〇」を植え付けたい！」

旅行者が確実に触れるもの、見るものを活用できないか？

・アメニティ ・**レシート** ・切符

↳ 良さそう！

記憶に残る出来事とは？

- ・私たちが経験した記憶に残る出来事
「階段から滑って頭を打ったこと」「香り」「きれいな景色」

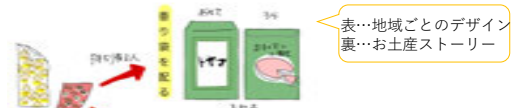


五感で感じたものが記憶に残りやすい！



レシートに**香り**をつけることで旅行者の記憶に残るものができるのでは？

提案するレシートの仕組み



表…地域ごとのデザイン
裏…お土産ストーリー



駅などに設置
→ 富山のシンボルに

HIBOSHIMA PEACE TOURISM URL: <https://peace-tourism.com/pece/4181-123.html>
お礼ごたわい 最終発行日2023/9/29

鈴木マサル、北日本新聞と富山もうよう。(SYURAKU) 最終発行日2023/9/29

どの香りを採用するのか

- ・季節ごとに一つの香りを提供する【決定】

採用の候補

- ・昆布
- ・ヒバ（ヒノキ）



いらすとや・餅・マスのイラスト、だし器のイラスト、URL
<https://www.irasutoyama.com/> 最終訪問日2023/9/29

まとめ

- ・レシートと香り袋を**お土産**として持ち帰って貰う
- ・香り袋集める・アートを作る「**体験**」と「**香り**」によって
思い出すきっかけを組み合わせると**記憶に残る**

人文学部：高草木 陽，都市デザイン学部：今田智咲，熊谷壽木，永野優菜，吉田莉乃

5 富山の魅力を伝える新たなPR法

富山の魅力を伝える新たなPR法

旅行者に魅力を伝えるため3step

1. 魅力を知る
2. 富山に来る
3. 五感で感じて魅力が伝わる

我々が提案する3つのPR法

知ってもらうPR法

富山ってどこ？

来てもらうPR法

何が出来るの？

教えたくなるPR法

君も富山行こうよ！

今回の提案は、それぞれ異なる3つのPR法と、その組み合わせによる総合的なPR法！

知ってもらうPR法

「それ富山でも良くない？」

・富山の魅力が人によって異なる点・絶対的な魅力が少ない点から複数の魅力を集め、それを複数の種類の広告媒体でPRすることを考えた。

※ 複数の魅力を複数の種類の広告媒体でPRした

1. YouTubeやSNS
若者に目を引くインパクトを
2. ゲーム内
成人男性にオンラインショッピングを
3. 新聞
シニア層に高級感と特別感を

来てもらうPR法

「体験型PR」

・VRを使って視覚・聴覚のみの不完全な体験をしてもらうことで五感でしか感じられない本当の体験を富山でしたいと思ってもらい、富山への集客につなげたい

Ex. 温泉に入っているVR

景色
風景
~~湯気~~
~~水音~~
~~湿度~~

五感全部で感じたい！！！！

➡ 「リアルには少し届かない体験にするのがミソ！！」

教えたくなるPR法

旅行者が他人に教えたくなるには？

他人に口コミで伝えてもらう

話のタネを持って帰る

富山での体験を印象づける

■ 富山での旅を印象づけるには？
→ 以下の条件を満たしたイベントを行う

1. 誰もが一度は目にする
2. 旅の記憶をより強固に

Ex. ちんどん屋
★ 富山駅構内で実施
→ 旅行者が必ず通るから
★ お土産を直接配り、お土産にも思い出を

これら3つのPR法と、この組み合わせで魅力を伝えていく

6 富山から出発する玄人志向のヨーロッパツアー

テーマ

富山から出発する 玄人志向のヨーロッパツアー 旅行玄人とヨーロッパ人の交流ツアー

旅行玄人とヨーロッパ人が
共に富山を巡り、
新しい感覚の旅行を楽しんでもらう!!

目的



「ツアーを通して国内外からの観光客を増やす」

ツアーの特徴

富山ならではの体験

富山には豊かな自然、伝統工芸品、美しい建物など、様々なジャンルにおける富山ならではの強みを感じることができる。

国際交流

日本に居ながら外国人と関わる機会は少なく、お互いの文化を交流を通して感じることができる。

参加のメリット

日本人の旅行玄人

ヨーロッパの方と各地を巡ることで日本人の着眼点だけでなく、異なる価値観の着眼点から富山の新たな魅力・価値を創造できる。

ヨーロッパの方

日本人の旅行玄人と各地を巡ることで、自国の仲間同士だけでは体験することのできた玄人志向の旅行ができる。

ツアー内容

3つのツアーパックから
参加するものを決めてもらいます。

※すべてのツアーパックでお互いの家庭料理を作り合う機会を設け、交流を深めてもらいます。

アクティビティパック

- ・キャニオニング
- ・ラフティング
- ・パラグライダー
- ・サイクリング

職人体験パック

- ・すし握り
- ・ますのすし作り
- ・井波彫刻
- ・能作

建築物巡りパック

- ・富山市ガラス美術館
- ・環水公園
- ・西洋建築

人間発達科学部：尾崎葉菜、都市デザイン学部：平野聖晃、山崎伶士

7 火山噴火での減災に向けて、景観と安全を両立シェルター

目的

火山噴火に備えることができる
シェルターを提案する。

- ・立山の景観に合うデザインにする
- ・避難場所以外の使い方を持たせる
- ・避難場所の認知度をあげる



※本来は保護区域のため大規模な工事はできないが、ここでは考えない

1

弥陀ヶ原火山の現状

弥陀ヶ原（立山）火山

- ・富山県東部に位置する安山岩質の**活火山**
- ・噴火時に想定される主な現象：
 - ・大きな噴石
 - ・火砕流・火砕サージ
 - ・火口噴出型泥流
 - ・融雪型火山泥流
 - ・降灰時の降雨による土石流

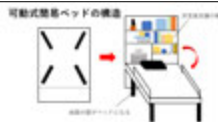


出典¹ 富山県 立山町 防災・観光インフォメーションサイト『立山町防災情報』
<http://www.town.tateyama.fyama.jp/sochi/kankou/sochi/sochi.html?3/2/13/34.html>

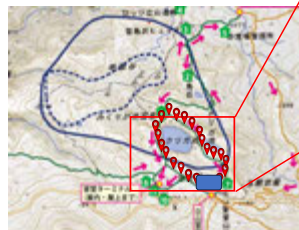
具体案① 地下迷路

通常時は**大規模な迷路のアトラクション**
として楽しめる**地下シェルター**

- ・入り口は堂々の山道に沿って約50m間隔で設置 (約40カ所)
- ・立山トンネルに繋がる**逃げ道も確保**
- ・迷路の壁**可動式簡易ベッド** (食料・備品など収納)
- ・緊急時は迷路のあった場所→広場＝**避難場所**
- ・真下が火口になったらその圧力で飛行する



地下迷路計画対象地域



出典² 地理院地図を一部改変

- 想定火口域
- 活発な噴気が見られる範囲
- 計画対象地域
- 避難入り口

出典³ 立山町 立山町防災・観光インフォメーションサイト『立山町防災情報』
<http://www.town.tateyama.fyama.jp/sochi/kankou/sochi/sochi.html?3/2/13/34.html>

出典⁴ 立山町防災・観光インフォメーションサイト『立山町防災情報』
<http://www.town.tateyama.fyama.jp/sochi/kankou/sochi/sochi.html?3/2/13/34.html>

新しい・新たな「歩き、回遊」

新しい「歩き・回遊」

普段歩かない場所？ → **トンネル！！！！**

歩き → 普段歩かない場所
回遊 → 観光すること

歩き × 回遊

= **雨晴トンネル**



交通の便が良い
観光地が多い

既存の事例

新潟県清津峡
トンネルで有名
→instagramの投稿数が約10万件
トンネルだけ観光地として成り立っている。

チームラボ/teamLAB
光と結びつけたアートで有名
開業1年で来場者数230万人




イベントの詳細

トンネルが明るく・楽しくなる
映えるイベント

- 20代カップルが対象
- トンネルの円形の断面を生かしたライトアップ
- 昼間なのにまるで夜
星空を再現したプラネタリウム
- 鏡と紙風船を使ったアート

越中国駅から歩いてトンネルのイベント
→その後周辺の観光地巡り



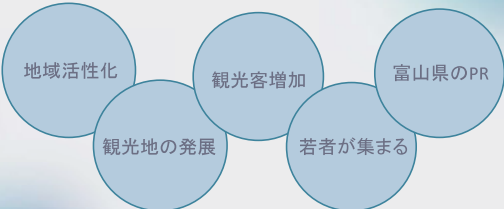
壁面ライトアップ

トンネル北西側
(雨晴・水見)

雲面ライトアップ
プラネタリウム
鏡の部屋
光風船と

トンネル東南側
(越中国駅・高岡)

まとめ



若者の健康と地域活性化へとつながる!!

人間発達科学部：大島唯菜，都市デザイン学部：田中和樹，長田璃胡，早木姫奈乃，三上拓馬

② 大学生が考える子供向け教室

『ポケットアドベンチャー』

～家族旅行・一人旅を計画しよう！～

背景

- 旅をさせることの重要性
- 「たくましく未来を生きる子供を育成することが学校教育に求められている」¹⁾

方向性

- 旅を主体とした教室を計画する
- 資質・能力を育ませるためのカリキュラムが必要

ターゲット 小学3年生～中学3年生 ※中学生は一人旅も視野に

『総合的な学習の時間』の延長線として位置づけ

1) 文部科学省・中・求められる力を高める総合的な学習の時間の展開。p2-p8. 2022年6月

私たちが考える”旅行から学べること

学びの深化


実際に訪問することで学校等で学んだことの更なる理解が期待できる。

お金・時間の管理

訪問先までの費用は？所要時間は？
どのように回れば効率的に訪問できるか？
情報の整理能力を育むことができる。

地域社会の理解


町工場等の意外な側面や地域のかかりについて理解できる。
→新たな知見を得ることができる。




Etc...

しおりの作成

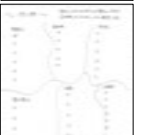
スケジュールの作成
滞在場所の事前学習



旅行中に想定される危険予測や
注意事項を挙げ対処法を考える




旅行中に必要なものを
考える



- 行きたい場所を選び、試行錯誤しながら最適な旅程を組む
- 旅行中に気を付けることは？
- 必要なものは何か？
- 事前学習(知識・技能)
- 財布を落としてしまったら？
- 買そろえるための費用は？
- 情報の整理
- 思考力・判断力・表現力
- 物・お金の管理能力
- 主体性

資質・能力の育成に貢献できる仕組み

振り返り



- 計画通りに旅行ができたか？
- (計画がずれてしまったのはなぜか？
- どのようにすれば改善できるか？
- 旅行を踏まえてどのようなことが学べたか？ Etc...

自身の考えを他者に伝える力の育成

まとめ

- 『総合的な学習の時間』×『旅行』 = 資質・能力の育成
- 地元(富山県内)の旅行→地域理解が深まる
- 子どもたち自らが旅程を考えることは**自立への第一歩**につながる

10 廃校の新たな活用方法を考える

廃校の種類と現状

廃校には大きく分けて2種類ある

1 田舎(山奥)
木造
小さな校舎

キャンプ場 道の駅 会社
工場 水族館 老人ホーム

活用事例があまりなく、売れ残っ
ている廃校に新たな活用方法を！



2 街中(平地)
鉄筋コンクリート
大きな校舎

活用事例があまりない

実際に活用されていない富山県の
廃校を例に考えてみる！

廃校の選定

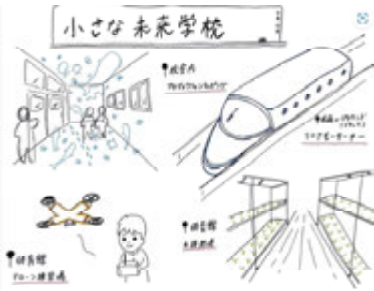
「南砺福光高等学校」

- ・いまだに活用方法が見つかっていない
- ・平地に立地している
- ・周辺に小学校、中学校がある
- ・近くに国道がある
- ・国道沿いに道の駅がある
- ・校舎が鉄筋コンクリートで加工しにくく活用が難しい



(図1)南砺福光高等学校 | 南砺福野高等学校 (tym.ed.jp)

小さな未来都市



提案

敷地内に小さな未来都市を形成
→主に企業に貸し出す

目的

技術開発の実験や現在進行形で行っている事業の宣伝

ターゲット

・富山県民
・金沢市民

今後の効果と予想

周辺の小学校や中学校の校外学習の場となる

子供たちはこれまでの固定概念を覆すような体験ができる

南砺市に魅力が増える

全国から観光客やその周辺に住みたい人があふれる

南砺市の住民が増え、まちが賑わっていく

まとめ

今までの廃校のイメージとは真逆の発想 → **近未来都市**
暗い 汚い
古臭い 怖い

私たちと一緒に「未来」を体験してみませんか？

都市デザイン学部：伊藤祐輝，山口 凜，篠原帆南

11 ジオパークで遊びをデザイン

ジオパークについて

ジオパークは地質学的重要性がある大地や景観だけではなく生態系や資源などの自然、要にはジオパーク内での人間活動である文化も含まれる。言い換えると大地、自然、文化が統合された1つの領域である。

イメージしたジオパーク

→ 佐渡島

要因

- ・周囲が海なので遊びをするのに最適
- ・独自の生態系、固有種も多く存在
- ・開発があり進んでおらず自然が多く残っている
- ・本土と離島では経済格差が生じている

現状と課題

企業の方

- ・客層は高齢者が多い
- ・目的も高齢者は見識を深めるために来るが、若者はたまたま来たらジオパークだったというのが現状...

方針

- ・ターゲットを3世代にして世代関係なくみんなが楽しめるようにする
- ・ジオパークの3要素であるGECを意識する
- ・遊びを通して学びを得る
- ・実際にやってみてみたいと思える遊びにする

ジオパークとは？

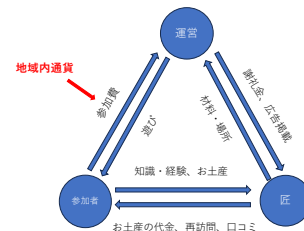
ジオパークは下記の3要素からなる

- ① ジオサイト
- ② エコサイト
- ③ 文化サイト

地質・大地（ジオ）だけではない！



ビジネスモデル



“手作り” 流しそうめんスライダーの作成



地球通貨“Geo Coin”



都市デザイン学部：門倉 涼, 北爪正希, 池田宇慧, 廣瀬健大朗

12 公共交通のネットワークとまちづくり

全学横断 PBL 12 班

課題提議と原因

課題

- ▶ 公共交通が使いにくい
本数、路線、etc...
- ▶ 人々は車で動く
時間・場所に縛られない



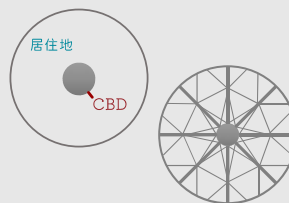
原因

- ▶ 居住エリアが広い
公共交通の減便・廃止
- ▶ 自動車の台頭
利用者の減少
- ▶ 郊外店舗の発達
市街地の過疎化

全学横断 PBL 12 班

クラスタシティの提案

▶ ハード面



- ▶ 居住地と CBD (中心業務地区)
を分離させた円状のまちを形成
- ▶ まち全体にロープウェイと
モノレールを整備
- ▶ 公共交通で、住む人が
動きやすいまちに

全学横断 PBL 12 班

クラスタシティの提案

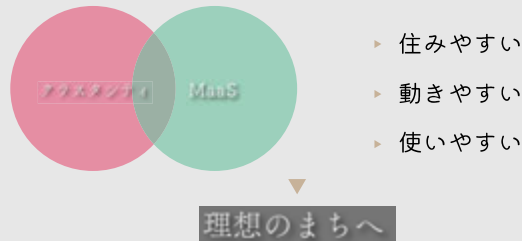
▶ ソフト面



- ▶ MaaS (Mobility as a Service)
を用いた交通基盤の形成
- ▶ AI を用いたルート提案で
ストレスフリーな移動
- ▶ 決済方法の円滑化により
乗り降りもスムーズに

全学横断 PBL 12 班

結果として…



都市デザイン学部：天児幹治，金 桃夏，辻 優騎，安川暁悠，吉田陽登，松崎優輝

連携・協力企業団体

【連携団体（行政）】

富山県
富山市

【連携団体（企業／各種団体）】

NPO まちづくりスポット
NPO 富山県防災土会
一般社団法人 立山黒部ジオパーク協会
北陸コンピュータ・サービス株式会社
北陸建工グループ
安達建設株式会社
名古屋市立高校常勤キャリアコンサルタント
たち建設株式会社
富山大学生生活協同組合
一般社団法人 Green Down Project
合同会社 HUGKUMI
日本総合リサイクル株式会社
ハリタ金属株式会社
正栄産業株式会社
社会福祉法人黒部市社会保険協議会
得能建設工業株式会社

JFEミネラル株式会社

株式会社 Asian Bridge／一般社団法人 TENKIN LAB
株式会社 村井工業
松嶋建設株式会社
株式会社 北陸銀行
宮越工芸株式会社
正栄ウェルフェア株式会社
株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト

実行委員

【実行委員】

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 安永数明 教授
(学部長／実行委員長)

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 橋爪 隆 准教授
(副実行委員長／講義担当)

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 佐伯 淳 教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 安江 健一 准教授

【講義担当教員】

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 渡邊 了 教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 立石 良 准教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 堀田 耕平 助教

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 本田 豊 教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 猪井 博登 准教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 高柳百合子 准教授

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 柴柳 敏哉 教授

本学関係協力教員

富山大学 学術研究部 社会科学系 日隈 美朱 助教

おわりに

富山大学では、これからの社会に求められる人材のスキルの一つとして学際融合教育プログラムを通して、デザイン思考プロセスによるイノベティブな協創力の発展を上げています。このスキルは今後、全ての学部・学生の必須要件になってくるであろう考えから、「全学横断PBL」科目は全学部の学生を対象として設計され、夏季の集中的な講義日程で開講されている。また、この教育プログラムは高次教養教育プログラムとして一般教養に2年次から開講する目的で設計が見直されている最中でもあり、なるべく早い学年から学修を通して、より一層のスキルアップになるであろうことが期待されている。

「デザイン思考」による問題の発見と創造的な課題解決方法の提案は、それぞれの学部・大学院で学年進行に伴い体験を重ねスキルアップすることが重要であること、また、企業や地域の皆様方と連携しながら、実際の現場で発見した真の問題を学生の柔軟な発想で解決策を具現化し、それを現場に落とし込んで検証するプロセスを繰り返すといった実践的な体験が必要不可欠です。

この度は、私どもの趣旨にご理解を賜り、ご協力くださいました企業、行政、各種団体、学内の教員の方々には、この場を借りて感謝を申し上げます。本講義をはじめとしたPBL系の講義科目は次年度以降も継続して開講を予定しています。今後とも宜しくお願い申し上げます。



〒930-8555 富山市五福3190 都市デザイン学部 学務課
Tel. : 076-445-6698 E-mail : tdesign@adm.u-toyama.ac.jp URL : <https://sus.u-toyama.ac.jp>
Youtube : <https://youtu.be/07HkYDqvB9w>